

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和 6年 3月 15日

コミュニティ名	シン・会議
代表者所属名	京都府立清明高等学校
代表者職・氏名	教諭・山下大輔

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

シン・会議

2 研究テーマ

高校におけるチルスペースの整備と活用に関する研究

3 研究の目的

不登校経験のある生徒や発達障害、感覚過敏のある生徒など多様な特性を持った生徒が高校に在籍している。そのような生徒が学習に安心して取り組めるように、合理的配慮やICT活用などの指導面での支援は一定成果を上げているものの、土台となる施設・設備面での学習環境の整備はあまり進んでいない。

そこで、多様な生徒が安心して学ぶことができる環境づくりを推進するために、先進的に環境整備を進めている施設・企業・海外校などを視察し、高校におけるチルスペース（1人1人が落ち着くことができる場所）のあり方について思索し提案する。

4 研究の成果と課題

<研究成果>

①企業や大学、特別支援学校において、1人1人が過ごしやすい環境の調整が進められていることが分かった。また、カームダウン・クールダウンスペースやセンサールームについての必要性が社会的に認知されつつあり、実用性の

研究等も進められている現状を把握することができた。

②生徒向けのアンケート結果から、学校生活において多様な居場所のニーズがあることが明らかとなった。

③各学校によって学習環境の調整のニーズは異なることが分かった。すべての学校に必要とされる環境と学校の実態に合った環境との整理が必要である。

④一部の学校で、チルスペースの設置・拡充をすることができた。

<研究課題>

①生徒のニーズや使用状況を十分把握することができていない。

②一部の学校で先進的にチルスペースの整備・活用を進めることができたが、他校ではチルスペースの意義等の十分な理解が得られていない。

5 研究成果の波及方法

①各学校でのチルスペースに関する情報の発信（XやHPなど）

②各研究会等でのチルスペースの整備・活用についての講演
（令和5年度京都府立学校教育相談研究会冬季研究大会で発表予定）

6 研究（活動）実績

年月日	研究（活動）内容（具体的に記入）	活動場所
R5/6/9	第1回会議（今後の研究計画について、視察先の選定について）	清明高校 （オンライン）
R5/6/23	第2回会議（各校の生徒の実態について、視察先の選定について）	清明高校 （オンライン）
R5/8/7	コクヨKハート株式会社（各種合理的配慮、施設の工夫）視察	コクヨKハート株式会社
R5/8/8	羽田空港（カームダウン・クールダウンスペース）視察 筑波大学（Accessible Study Room）視察	羽田空港 筑波大学
R5/8/9	株式会社LITALICO視察・相談（クワイエット・アワーなど） 株式会社LIFULL（インスタントハウス）視察	株式会社LITALICO 株式会社LIFULL
R5/11/10	第3回会議（視察の情報共有、研究のロードマップ確認、アンケート案の作成）	清明高校

R5/11-R6/1	「学校空間と心の居場所アンケート」実施	各校
R5/12/5	第4回会議（アンケート結果の共有、チルスペースの設置・拡充について）	清明高校 （オンライン）
R6/1/30	大阪府立箕面支援学校（スヌーズレンルーム）視察 株式会社フィルノット（スヌーズレングッズ）視察	大阪府立箕面支援学校 株式会社フィルノット
R6/2/20	第5回会議（発表資料の確認、今後の予定について）	清明高校